

# 高退協ニュース

高知高退協  
事務局  
03.11.12  
No.125

高知高等学校退職教職員協議会  
〒780-0850 高知市丸ノ内2丁目1-10  
TEL 088-1822-1682  
TEL 088-1822-1682  
郵便振替口座 0165012111893

## 第十七回

### 高知県高齢者大会

「町から村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくそう」  
う！第17回高知県高齢者大会（主催 高知県高齢者運動連絡会）は、9月13日（土）こうち女性センター「ソール」で開かれ、92名（加盟団体 および個人）が参加しました。高知センター合唱団による「合唱」、歌声指導の楽しいオープニング。基調報告で彼末事務局長は「社会保障の連続改善をくい止めるため取り組みを強めよう」と訴えました。つづいて、日本年金者組合高知本部竹村昭三委員長が「年金問題について」の活動報告をされ、年金改善反対を呼びかけました。記念講演では、上坪 陽氏（日本高齢者NGO会議議長）が、歴史的・国際的な高齢者運動の動き、取りくみと課題、そして今後の方向について、わかりやすい、語りかけで、明らかに示されました。そのなかで、豊かな高齢化社会を切り開く展望を報告。2002年4月スペインで開かれた国連・第2回高齢化問題世界会議で「高齢化を社会発展に生かす仕組みを」述べた政治宣言が採択されたことを紹介し「全ての世代が豊かに暮らせる社会をつくっていかう」と呼びかけました。（小澤 記）

### 平和（九条）と 社会保障（二十五条）を 守れ

第十七回日本高齢者大会  
（9/28、29 於 浜松）  
会場いっぱいになり明るく満ち溢れたシニア合唱団の歌声に迎えられて、全国から集まった二千五百人を越える仲間たち「輝け、いのちと憲法のこころ」「ひとりぼっちの高齢者をなくそう」を身につけての参加。基調報告のなかで篠崎次男事務局長は「大規模大会から、どこの地域でも開ける中規模大会へ」と強調。医療保険、年金、税制などの大改善がねらわれる緊迫した情勢への認識を一致させ、全国各地でこれに抗する運動を広げようと訴えました。蟹江さんさん主治医を勤めた室生昇医師が「皆さんに学ばるまで生きる健康術」記念講演。「医療保障は長生きに不可欠。実現した自治体施策の積極的活用を」と強調しました。「高齢期運動のいままで、そしてこれから」特別分科会の問題提起を受けて、各地での数多い豊かな取り組みの報告がおこなわれ、十六の分科会、学習講座などでは、年金や介護の問題、憲法、環境問題など、多彩なテーマで熱心な議論が交わされました。（小澤 記）

### 活動日誌

- 9日 高退協事務局会
- 13日 県高齢者集会
- 19日 満州事変勃発72周年記念行事
- 22日 全退教四プロ役員会
- 27日 高校教研実行委員会
- 28日 日本高齢者大会
- 29日 同
- 30日 植木枝盛旧邸問題集会
- 【10月】
- 4日 10・4県民集会
- 7日 高退協事務局会
- 8日 高橋昭二さん見舞
- 13日 県詞の会 北川貞彦没後百年記念
- 18日 県退婦教35周年記念祝賀会
- 22日 第1回高退協県内温泉旅行
- 25日 高校教研集会
- 26日 同

### 高退協一泊旅行

高退協恒例の一泊旅行は今年二十三回目を迎え、湯村温泉でドラマ「夢千代日記」を偲び楽しい一夜を過ごしました。  
武蔵の里・香住海岸遊覧船・出石の街めぐり・生野銀山など盛りだくさんの観光で一同、和気あいあいの二日間を過ごしました。  
来年は九州という声も出ていますが、多数のご参加をお願いします。行きたい所など旅行係まで一報ください。



## = ご案内 = 望年会・芸能祭 作品展示会

- \*とき 12月9日(火)  
午後5時～7時30分
- \*ところ 高知城ホール 4階ホール
- \*会費 5,000円
- \*申込先 和田明 843-2713  
中川正路 822-6778

申込は12月2日(火)までに  
多数のご参加をお願いします

「作品展」については、4階ホール(当日)の他に、1階ロビーで12月16日(火)まで展示します。

……<ご出演・ご出品のお願い>……  
芸能発表会の出演、作品展への出品について会員の皆様方のご参加ご協力をお願いします。出演のご連絡は、上岡積(860-0978)・林応子(844-2035)まで。出品のご連絡は、田所昌澄(822-7967)・西込曠(875-9029)まで。なお出品は当日の4時30分までに搬入をお願いします。

## 老声草

退職と同時に高退協と退婦教に入り、両方の役員になって十年目。両方入った人は周りでは私だけで、しまったと思つたがあの祭。後悔しながらのスタートだった。

両方いると会議も二倍。拘束された気で退職した甲斐がないと思ふ気も強く、つい比較して身びいきになりがちだった。がいつのまにか両方にいるのが苦にならなくなっていた。比較も減った。気に染まない結婚でも末小吉でしょうか。

これには退婦教の感化が強い。退婦教は今年結成三十五周年を迎え記念誌を出した。その記念誌に岡崎清恵会長が祝辞を寄せ、退婦教役員が現職組合員の時、誠実に不屈に行動したと称えてくださった。その誠実不屈の精神、行動が退職後も連絡と続いている。私など、うわアこれほどまでしなくちやならないのか、かなわないなあと思ふのだが、十年もつきあうと洗脳同化されて、脱帽している。誠実不屈は強いのです。

両方向じような運動をしているが、退婦教は母親運動や医療生協と深くかわつて会員が活発に活動している。組合そのままた七つの支部があり、支部ごとの総会もあり、各会員に活動が浸透しやすいのだ。それが力になつているのはよくわかるが、この、辞めても組合、というのがとてもしやだつた。もつと組合的発想から自由になれないものか。退婦教でも高齢化で、活動の維持、活性化の困難が言われてはいるが、組織の形、活動そのものへの疑問はない。

私はゆるやかなつながりの高退協の方が退職後にはいいと気に入っているが、憲法改悪や自衛隊海外派兵にも反対運動は盛り上がりならず、年金は減額、医療費はただにならず、まだ負担増が画されている現在、活用できる組織は、強力に活用して意思表示し、行動しなければならぬと切実に思ふようになった。辞めても組合、で結果していくのが必要なとき、こと、があるのだと変わつてきている。（坂本）

乗来寺残日録 坪井 幹之

高齢者講習のこと

県の公安委員会より連絡を受け、九月二十九日、中央自動車学校で、受講料六、一五〇円の「高齢者講習」を受けた。道路交通法の改定で、満七〇歳以上で、免許証を更新する場合は、この講習を受けなければならないこと。実技もあると聞いて、やや緊張して出掛けた。

講習は高齢者の安全運転についての説明から始まった。強調されたことを一言でいえば、加齢とともに運転機能があらゆる面で衰退していることを頭において乗車すべし、ということであった。

次に視力の検査があった。静止視力〇・七、動体視力〇・四で「やや優れている」との評価。続いて運転適性検査。その結果は総合判定で「普通」と出た。次は実技で、学校のバックがなくて、ホツとした。

最後にテレビで啓蒙番組を見て、三時間の講習は終わった。

歳をとると、いろいろ社会的制約が増えてくるが、とにかく安全運転に徹することは大事であろう。

インド・ヒマラヤ

眺望の旅

余命は僅か、せいぜい十年か。その間にやりたいことがいくつある。八十八カ所歩き遍路の結願、日本百名山の完登、そしてヒマラヤ、カラコルム八千米級の眺望である。勿論、ヒマラヤの峰々に登ることは不可能で「神々の座」

に接する旅である。見るといっても、基準が難しい。自己満足でよしとするしかない。今までに見参したのはサガルマータ(エベレスト)、ローツェ、アンナプルナ、ダウラギリの四峰である。この十月、インドとネパールの国境に聳える世界第三の高峰カンチェンジュンガ眺望の旅に挑戦した。その見聞記をご披露する。

このトレッキングの出発点はダーズリンである。この町は「インドの軽井沢」と言われる避暑地で、銘茶の産地としても有名である。また、ヒマラヤ登山の基地として、かのシエルバ(高所ガイド)発祥の地でもある。十日、閑空パンコク、カルカタを経て到着。翌日、早朝タイガーヒルへ。日の出に輝くカンチェンジュンガ山系の全姿を見る。感激、興奮。遙か西方にマカール・エベレスト・ローツェの三峰を眺めえて大満足。朝食後、世界遺産のトイトレインに乗って、街を見学。

翌十二日よりトレッキング開始。一日目はトングル(三〇七〇米)泊。二日目、サンダクプー(三六三六米)に登る。ネパールとシッキムの分水嶺シンガリラ属根上の一峰でヒマラヤの展望台である。早朝、テントを畳いで雲上に聳える氷雪の高峰を堪能。これで今回の山旅の目的達成。この日から下山。途中一泊、十五日、ダーズリンに帰る。

これから後半、ブツダガヤの訪問に移る。自動車と飛行機を乗り継いで、十六日遅くブツダガヤに入る。ここは釈迦が悟りを開いた、因縁を自覚した「成道」の地で、仏教最高の聖地とされている。翌

十七日はいくつかの遺跡を巡って、深夜の列車でカルカタに向かう。その夜、交通事故のアクシデントに巻き込まれ、帰国が一日延びる。パンコク経由で閑空に着いたのは二十日となった。

行程を通じて、もちろん、ヒマラヤの眺望には涙したが、各地で見聞したインドの実情には驚かされた。「百聞は一見に如かず」である。とても言葉で表現できるものではない。一言で言えば広大な貧困の蓄積である。同行したインド人の現地ガイドによれば、数千年のカースト制度のなせる業であるが、インドの人々は悠々「輪廻」の世界観で生きていくとのことであった。宿題をかせられた思いで帰ってきた。

岩手山麓の

出で湯を訪ねて

盛岡駅でレンタカーを借り、岩手山麓を時計廻りに訪ねてみたい。まず小岩井農場に寄り、新鮮な牛乳とステーキ屋食をとる。さらに一時間も走ると田沢湖畔に到着。澄みきったカルデラ湖であり、透明度は日本第二位。強酸性のため魚も藻類も育たず、濃いところではpH3とか、嘘のような本当の話である。

さらに乳頭山山の方に30分も走ると乳頭温泉郷がある。この中でも鶴の湯をお勧めしたい。門柱には「本陣鶴の湯」とある。秋田・佐竹藩の藩湯であったころの面影をとどめている。旅館部と自炊棟からなり、乳白色の露天風呂が二つと透明な屋内風呂がある。夕飯は部屋食で、岩魚の焼物・味噌仕込みの山の芋鍋がメインになっている。食膳には近くで摘んできた秋の草花が副えられている。静かな山あいで満天の星を眺めながらの温泉は格別である。翌日は、八幡平アスピーテラインへと向かう。途中、玉川温泉で一休み。ここは強酸性泉で、大きな湯治場になっている。一風呂浴びてコーヒィ・ブレイク。敷地内のあちこちには硫黄の塊りが、そして突然吹きだしてくる水蒸気には驚かされる。初秋のアスピーテラインは、移りゆく景観とさわやかな風が心地よい。後生掛・ふけの湯・藤七等の有名温泉も

俳句

9月11日(木) 高知市鏡川月の瀬橋辺にて

合田 青幹

卓に活く三宝山の葛の花

吉本 伸秋

驚の声無月の白き闇を裂き

中内 英明

大玻璃の闇に映りて月の供花

中内 みち代

楚楚と咲く盗人萩も月の庭

小笠原さちを

月代か横一線にほの明かく

待ちかねし月に動かぬ雲居かな

あるが、今日のめざすところは松川温泉である。南西約10kmにある葛根田と共に日本三大地熱発電所のうちの二つがここにある。地熱発電は、一度設備すると後の経費が全く要らないクリーンエネルギーである。条件としては、高温の大量の湯、そして湯垢の少ないことが求められる。一億円も投資し、1km以上も掘って「お湯が出てきた、パンザイ」と叫んでいる人達が気の毒になってくる。発電所の高い塔を横目に、今夜もゆつくり露天風呂を楽しんでいる。

湯原 勲

個人情報

西込 曠さん

高知市民病院に入院中

高橋昭二さん

病気通院中

岡崎清恵さん

県公民館連絡協議会会長より永年勤続で表彰される

高教組だより

執行委員長 橋元陽一

久振りの投稿です。教育を巡る情勢は急転しています。またこの度の知事選は土木行政だけが争点ではなく、「土佐の教育改革」を検証することが求められている中、県教育委員会が旧来の自民党派と橋本知事派で二極化している状況が浮き彫りになるのではないかと懸念します。これまで自民党派の下で不透明であった管理職や教員採用制度の透明性が広がる一方で、管理職や県教委事務局職員による不祥事が後を絶たないことや成績率賃金導入や県立学校学科再編・統廃合、高校入試制度改革などの条例改正が関わる課題では、県議会総務委員会や本議会に掛けられることなどから両者の対立構造が表面化するのではないかと思われま

合・再編を決定するとしたら余りにも無謀な行為です。自らの足で現場で議論していることを聞き取り調査するなどして、臨むべきだと痛感しました。また今度の知事選でも、県立高校の存在が競争の具の一部にされていくことを危惧しています。高教組は九月二十日に「どうなっているのか」に「どうなっているのか」をテーマとして、日高教工藤副委員長の講演、吉岡教文部長からの報告などを行いました。また、十月八日に子連主催で、いま検討委員会で議論されている高校入試問題を巡る動向について、吉岡教文部長が報告しました。十月二五・二六日には高知工業高校を会場に、今年度の高校・障害児学校教育研究会を開催しました。佐藤一子東大教授の「いま大人たちは子どもとどう向き合うか」学校と地域社会の協働に向けて「題した講演と、教科別分科会、課題別分科会に延べ、十八〇人が参加しました。

特に高校再編・統廃合を巡る問題ではマスコミでも報道されていますように、「子どもが主人公」「参加と共同」をキーワードにした「土佐の教育改革」の流れを逆行させる行政手法が県民の前に露呈しています。丸の内、大方商業、久礼分校でも保護者・地域住民がその手法に異議ありと表明し、県教育委員会宛や十二月議会に向けて請願署名をすすめています。十月二二日の定例教育委員会は、審議未了で延期され、臨時教育委員会が設定されています。しかし六人の教育委員が、事務局から

短歌

曼珠沙華

榊原 忠彦

炎熱の電柱工事は特大のパラソル掛けて青空に浮く

曼珠沙華鏡川畔に咲きほこり陽光はきらめきて秋風ぞふく

めつきりと疲れを覚ゆる日々となり好きな自転車漕ぎあぐみゆく

あらしの星

叶岡 淑子

戦いの後なるわれらの日にかさねイラクの民の惨禍の夏よ

両腕をもち耐えいし少年の鋭き眼窩いま何をみる

あらしの星に静かに近づける赤き感星六万年を経て

教え子と君

山本 晶子

エレキギターに興じし生徒が送り来ぬ彼の著書なる「中国ビジネス実務べんり事典」

会社をば設立せしと賀状をば案じて読みしこととなりけるが

人の心あたたくする母親に彼育まれいきいきと生く

川柳

雑樹集 其の二

―安息・絆・自立―

ハジキキキキ

罪の闇深き受難の夜が過ぎ  
恙なし便りもなく娘の家出  
選択は妻が握るといふ安堵  
窓際で終えた余生を愛しむ  
青年の群れ反戦の歌に生き

相撲ミニ知識 (五十五)

林 勤

公傷制度廃止  
公傷制度とは、本場所の土俵上でけがをした力士を番付面で救済する制度であり、一九七一年十一月場所から竜虎がアキレス腱を断裂、四場所連続休場して西前頭三枚目から幕下西四十二枚目まで急降下。あつという間に給料も付け人もいない状態に陥ったことなどが契機となつて翌年一月場所から実施されてきた。

同制度の骨子は「①大関は八勝以上を挙げない場所が二場所連続と関脇に陥落するが、公傷の場合は三場所保証される。②関脇以下の力士は、八勝以上を挙げないと一場所毎にどんどん下がるが、公傷の場合は、次の場所には一度下がるが、そこで休場しても次ぎの場所には下がらない(但し、この特典は一場所限りである)」ことである。

この特典が、二〇〇三年十一月場所限りで廃止される。その一方で、二〇〇四年一月場所から幕内と十両力士が各々二名ずつ増やされる。陥落する場合に少しの救済になる。公傷制度を廃止する主な理由は①公傷の申請をすれば殆んど認められ、安易な休場を招く結果の一つと見られてきた。②公傷の認定について不公平になるケースが全く無いとは言えない等である。

力士のけがには「日頃のしこ、てつぼう、すり足等の基本のけいが不足。大型化や健康管理の不十分さ」もあるが、一方では、年六場所・九十日もの本場所があり、その二ヶ月毎の本場所の間には、一カ所で落ち着いてけいこもできないような移動の多い巡業があるなどの過密興行にも原因があることは否めない。「公傷制度(救済)」があるから思い切つて取つてくれたが、これからはけがをしないことを第一に考えてしまふかもしれない」という力士の声もある。また、けがをした力士が無理をして早く出場し、けがが悪化させることになりはしないか、という心配もある。

ともあれ、公傷制度廃止で休場者は減つたが、けがを抱えての出場で相撲内容に迫力がなくなつたのでは元も子もない。基礎体力づくりと自己管理を徹底し、公傷制度の廃止が負の結果を招くことのないように望みたい。こしはばらくは要注目である。

スキー研修・親睦案内

主催：高退協スキークラブ

日程：2004・2・3(火)～2・6(金)

3泊4日

場所：安比高原スキー場(岩手県松尾村)

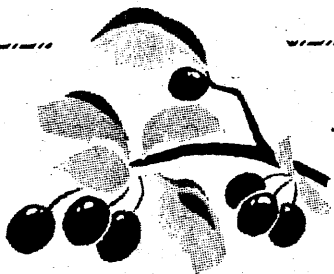
宿泊：安比高原内ホテル

募集定員：20名

費用：大人約8万円

申し込みその他については別添をご覧ください。

東北のリゾート地でのスキーです!!



内掛け



自分の左足(右足)を、相手の右足(左足)の内側に内掛けて掛ける。思い切り引いて相手の重心を失わせ、尻もちをつかせる。土俵際まで相手を追いかけても有効。

### 生きる喜びを確認

新企画の温泉昼食会を一月二十二日に実施した。参加人数が不安であったが、山崎博幸氏の参加を聞きつけ、女性の参加者が急増した。山崎氏の人徳に感謝します。男七名女六名合計十三名が四台の自家用車に分乗した。十数年ぶりの再会のものもある。秋晴れのもとコスモス満開の物部川をのぼった。本年五月開館の吉井勇記念館である。入場券各自四〇〇円で買った。

十三名は団体扱いになるとのことです五〇円ずつ返してくれました。世話人である私の誤算でした。勇み足でした。吉井勇自筆の短冊が掛かっている。

「命短し恋せよ乙女 赤き唇あせぬまに」を口ずさみ、若き日を想いだしたのか、それとも残りの人生を考えたのか涙ぐむ人もいた。若き女性学芸員の解説で吉井勇を身近に感じた。

夢の温泉で山や川を眺めな



がら温泉に浸かった後、昼食をとった。健康に関する話題でにぎわった。テニスで汗をかいた後のビールがうまいとか、八十歳を超えて毎朝五キロメートルを走る健脚もいる。最近胃がんと内視鏡で摘出したものに質問が集中した。胃には痛いという感覚がないというのである。でも「胃が痛い」と言うのを聞くが、どうしてであろうか。脳腫瘍を光ファイバーで手術したものの、脳梗塞の予後の者もいる。病気を乗り越えただけに生きている喜びを確認しあつた。再び喜びを確認できるのも夢の温泉であろうか。

温泉を後にして歴史民俗資料館を訪ねた。高退協会員でもある坂本正夫館長の歓迎を受け、割引どころか高齢者は無料で入場できた。高知県にある国宝やニューヨークでも話題になった「いざなぎ流の御幣」などの解説に耳を傾けた。

三谷隆彦

### 老眼鏡

もう一つの満州

小島 真子

「満州」は中国の弱体化に乗じて、新興国日本が武力と策略で中国からもぎとった「傀儡国家」である。日本にとつては都合がよくても、「王道楽土」「五族協和」の旗印のもとに、他民族に支配された満・蒙・漢・鮮の人々の苦しみはどんなものだったのか？私の好きな作家・澤地久枝も私もその「満州」で育った。

この本は「満州」を中国人の手に取り戻すために闘い、34才の若さで日本軍によって射殺された楊靖宇の足跡を追った記録である。病弱な作家が北京からでも四千キロの旅に耐え、調査を続ける。その中で明らかになっていく楊靖宇

### 私の健康法

竹本 長生

長い間つき合ってきた「境界型の糖尿病」と縁を切るようにいわれてもう六年になる。一日、一五〇〇カロリー、六〇\*の体重を、五七\*にすること。幸い「フライデークラブ」でテニス始めていたので三\*くらいの減量ならと、高をくくっていた。

それから三年間余り、テニス(週二回五〜六時間程度)を通じて脂を搾ってみたが、なかなか効果がみられない。半ば諦めていた四年目になろう頃から減量が始まり、いつしか五五\*のスタイルとなった。

カロリーのついては、かみさんの然らしむところだが、時に「バランス・フード」なる栄養学をかじりながらの運転であった。エンジンのかかりは遅かったが、血糖値も正常になり一頃のような疲れはでなくなった。分厚く占拠していたお腹の脂肪に若干のあそびができ、腸の蠕動運動が

るといふことを心に刻まなければならぬ。ちなみに私の父は、たまたま楊靖宇と同じ年に生まれ、5年間のシベリア抑留生活を

経て、98才の今なお健在である。同じ時代・同じ「満州」にいて、父の3分の1しか生き得なかつた楊靖宇を想う時、二度とこのような過ちを國に犯させないよう努力しなければと思う。

過ぎた9月に、会員の田所金久さんによる「戦争の真実と今日の課題」満州事変を中心にして」と題する講演会があつた。

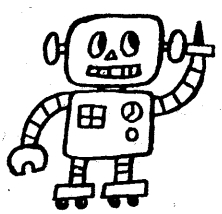
日本が何を目的に、どのよう大陸を侵略し、支配していったかがよくわかつた。歴史を知ることが、これからの間違いなく進むことにつながる。高退協からは5・6名の参加だつたと思うが、過去を正当化し、再び同じ道を歩こうとする動きが進んでいる。今、もつと多くの方に聴いてほしい話だつた。

《よかつた、よかつた》と拍手をおくつてくれた。

だがその頃から、右眼に異常が現れ、なんでもないボールを空振りしてしまう。診断によると、加齢性の網膜上膜で手術もままならぬらしい。諦めてはいるが、これが「塞翁が馬」になるやもしれない。いやいや古稀を迎えた今、数病とは仲良くつきあつて行くのが息災なのかもしれない。ともあれクラブの皆さんに遊んでもらひ、汗を流せることに感謝している。

田舎(仁淀)での農作業は、手間のかからない野菜とお茶の栽培を細々と続けてきた。植えて数年も経てば緑豊かに繁茂し新たな命を育んでくれる。いわば、自然から授かるエネルギーには計り知れないものがあるが、それを如何に享受するかは難しい。進行する老化は進行にまかせ、春秋の坂をひたすら越えてゆかねばなるまい。

ただ、楽しみの一つは此の春、場所を選んで植えた一本の木である。名花「大山蓮華」が咲くのは来年の五月になる。



### 10・4県民大集会で

フリーマーケット出店

中央公園で開かれた集会の前に舞台では歌やリレートークが行われる中、高退協もフリーマーケットの出店を出しました。12時開店の準備中から、早くもお客さんが買いに来られあわてましたが、初めての経験にしてはまずまずの結果でした。最初安く値をつけすぎましたので反省しています。次回は高めにつけて、客とのやり取りのなかでだんだんと値を下げるようにしなければと思ひました。売上金はカンパとして全国大会参加の資金の一部に使わせてもらいました。

いろんな品物を提供して協力して下さった方々に御礼を申し上げます。次の機会もぜひ皆様ご協力ください。(河村)